

私の目を見て

大田市立川合小学校 6年
多根 藍佳 (たね あいか)

「お前、目の大きさ違うな。つぶれてんの？」

私は、生まれた時から左右の目の大きさが少し違います。はっきりとみんなとは違うと感じたのは、中学年の時です。突然、男子に

「なんで、目の大きさ違うん？」

「目、大きく開いてみて。」

とわざとらしく聞かれました。明らかに、私とみんなの違いをからかって聞いている言い方でした。私は、平気な顔を作って、

「これ、生まれつきなんよ。」

と話しました。

でも心の中は言葉では言い表せないくらい、くらい暗い気持ちになりました。深い深いブラックホールに突き落とされたような気分でした。私は見た目の違いをからかいの素にする人たちが許せません。自分たちとの違いをわざわざ見つけて、それを理由に突き放すような行為は絶対に許せません。みんな同じ人間なんだから。

「人権について考えましょう。」と授業で話されたとき、私はすぐにこのつらい思い出を思い出しました。「人権＝違いを認め合うこと」だと思ったからです。違いを認め合うことって難しいことなんだなと自分の体験からも思います。

でも、自分はどうだっただろうと振り返ってみると、違いを気にする自分がいることに気付きました。例えば、出かけた先で、病気などで見た目が少し違う人がいたとき、私は気になって見てしまいます。小さいころ「じろじろ見ると、失礼だよ。」と教えてもらったからじっとは見ないけど、何か気になって見てし

まいります。どうして、違うことって気になるのか自分自身に問いかけました。

まず気付いたことは、「どうして。」という知りたい気持ちがあるからではないかと考えました。「どうして、体が不自由なのかな。」「病気で見た目が違うのかな。」って知りたい自分がいます。相手には失礼なことなのかもしれませんが、知ることで納得したり、偏見をなくすこともできると思うので、この「知りたい。」という気持ちがいい気持ちなのか悪い気持ちなのかよく分かりません。

もう一つ思ったことは、私は「人と同じである。」ということに安心することがあるということです。だから「違う」ということに目が向いてしまうのではないかと考えました。「みんな違って、みんないい。」そう分かっているけど、自分が違うことが嫌だし、そういう気持ちが人の違いを気にしてしまう原因なのかもしれません。

こうして考えてみると、人を大切にすると難しいことなんだなと気づきました。ただ一つ言えることは、違いがあるのは当たり前前ということを経験が分かかって、お互いを知ろうとしたり、認め合ったりする努力をしないといけないということです。私をからかった男の子たちも初めは知りたかっただけなのかもしれませんが、それをからかいや差別につなげたことが間違いだったのだと思います。だからまずは、自分が気を付けることから始めようと思います。人に注意することも大切だけど、まずは自分もしているかもしれない、見た目への偏見や差別を自分の中で消し、みんなにも広めたいと思います。

私は、「自分が認められているな。」と思うときがあります。それは、目を見て話を聴いてもらえるときです。ちょっとしたことだけど、それだけでとても嬉しくなります。だから、認め合う第一歩として、私は相手の目を見て話が聴けるようになりたいです。それなら、今日からでも出来そうです。相手がだれであれ、話を聴くときはきちんと向かい合って目を見る。そうしていくうちに相手のことを分かってくるような気がします。私が嫌な思

いをした『目』だけど、私が人権を大切にするためのシンボルだ
ということに気付くことができてよかったです。